

【さんすう】

「※」はべんきょうするときの せんせいからの あどばいす アドバイスです。

<べんきょうすること>

◆「ぜんぶでいくつ」（きょうかしよ 47～49ページ）

あわせると なんびきに なるかな？
おはなしの とおりに ぶろっく ブロックをおいて うごかしてみよう

- (1) ひだりのすいそうに きんぎょが、 5ひきいます。
みぎのすいそうに きんぎょが、 3ひきいます。

※わくのなかに ブロックをおきます。



- (2) きんぎょを おおきなすいそうに いれました。



- (3) あわせると ひきになりました。

Blank space for writing the answer to question (3).

(4) おはなしを しきであらわすと…

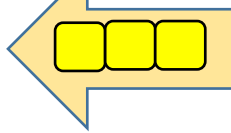
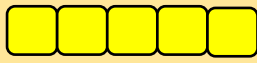
しき

$$\square + \square = \square$$

こたえ



ひき



5ひきと 3ひきを あわせると、
 ひきに なります。



きんぎょを おおきなすいそうに 入れた おはなしを
ノートに○のずであらわせるかな？

※きょうかしょの49ページの ノートのずを みて かいてみよう。

えを みて たしざんの しきに かきましょう。



$$\square + \square = \square$$

じぶんで 「あわせてなんこ」になる たしざんの おはなしを
かんがえて ノートやとりくみシートにかいてみよう。

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

◆いくつといくつ（教科書 P47～49）

- お話に合わせてブロックを動かしたり、絵から式をに表したりするなど、1年生で学習するたし算は、様々なものに置き換えながら関連を図ることで数の感覚を豊かにしていきます。これは、この後のひき算の学習でも同様です。
- 数感覚を豊かにしていくには、時間がかかります。ですから、1年生は、「計算して答えを出すこと」だけでなく、「式」からお話を作ったり、絵から問題文を考えたりしながら、数の見方を育てていく大切な時期になります。